

釧路南ロータリークラブ会報

第7回 例会報告 2020.8.28 通算 1815回

・点 鐘 奈良会長

・ロータリーソング

「それこそロータリー」



ソングリーダー 福井 克美会員



佐久間 光弘会員

・誕生祝

亀井 麻也会員 S44. 8. 28 (51歳)



・お客様と来訪ロータリアンの紹介

ひがし北海道市民防災サポート 辻川 実代表

・入会記念祝

佐藤 真之介会員 H29. 9. 1 (3年目)

佐久間 光弘会員 H29. 9. 1 (3年目)



佐藤 真之介会員

・会長挨拶



みなさんこんにちは。本年度7回目の会長挨拶をさせていただきます。

本日のプログラムは広報メディア委員会担当例会の“ゲスト講話”となっております。佐藤広報メディア委員長準備等ありがとうございました。

そして本日の講師であります辻川様どうぞ宜しくお願い致します。近年は日本各地で大雨などによる大きな災害も多く発生しておりますし、釧路はもともと地震も多い場所でありますので本日の講話は非常に興味深く楽しみにして会場に来ましたのでしっかりとお話をお聞きして防災意識を高めて帰りたいと思います。また、先週は会長幹事会に出席してきました。何点か確認事項が出ておりますので理事者の皆様には菊地幹事よりご案内させていただきますのでご協力お願い致します。以上、会長挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

・幹事報告



- * 釧路北、釧路西、釧路東、釧路バイロータリークラブより9月プログラムが届いております。
- * 釧路北ローターアクトクラブより第5例会のご案内が届いております。

前回の理事会で ZOOM 例会の件で決まったことをお伝えいたします。

会場出席が○、ZOOM 出席は△と調整さんに記入をお願い致します。

各資料は回覧しておりますのでご一読を宜しくお願いします。

・委員会報告

親睦委員会

- ・本日のニコニコ献金

佐藤 真之介会員 入会記念祝として
佐久間 光弘会員 入会記念祝として
亀井 麻也会員 誕生祝として

次週プログラムのご案内



福井奉仕プロジェクト委員長 献血例会のご案内

・本日のプログラム

「ゲスト講話」

担当 広報メディア委員会

◆佐藤広報委員長より辻川様のご紹介



本日のプログラムでございます「ゲスト講話」の担当が広報メディア委員会ということで私の方で講話をいただくゲストを選出させていただきました。

本日ご講話をいただきますのは防災士の辻川実さんです。釧路出身釧路在住の防災士で、現在 FM くしろにて番組も持たれています。辻川さんには2年

程前に、私の職種の損害保険の代理店で組織される北海道侵害保険代理業協会釧路支部主催の一般市民 150 名程を招いた形のオープンセミナーでご講演をいただきました。

その時の内容が市民の皆様から非常にご好評をいただいたと言うことで今回是非辻川さんをお願い出来ないかとお声をかけさせていただきご快諾いただきました。釧路に関しましては自然災害は全国的に見てもどちらかというと少ない方ではないかと勝手に思っておりますが、年々予想を超えた異常気象が目立つ中で、今後も全く起きないという確証はございませんので、ぜひ今回大事が起きる前と言う意味も含めまして色々ご教授いただければなと思っております。では早速でございますが辻川さんどうぞよろしく願いいたします。



ひがし北海道市民防災サポート 代表辻川実様
《講師略歴》

辻川 実 (つじかわ みのる)

昭和 49 年 6 月 19 日 釧路市生まれ

ひがし北海道市民防災サポート 代表

特定非営利活動法人日本防災士機構認証防災士

平成 5 年 3 月 釧路江南高校卒業

営業職などを経て 平成 22 年 2 月 22 日防災士認証を取得。

平成 22 年 4 月から平成 25 年 9 月まで、埼玉県さいたま市防災アドバイザーに就任。

平成 25 年 10 月に釧路へ U ターン後、釧路を拠点に災害対策の啓蒙活動を行う。

平成 26 年 4 月より FM くしろにて「備えて安心」パーソナリティ。現在も番組を継続中。

平成 29 年 10 月からは沖縄県読谷村の FM よみたん

の番組へ毎月一回電話出演し、防災に関する話題を提供中。

令和元年 6 月、災害時の市民ネットワーク強化を主眼にした中間支援組織として、「ひがし北海道市民防災サポート」を設立。

令和元年 9 月からは道内の民間組織が共同で設立した「北の国災害サポートチーム (きたサポ)」に参画、副代表として全道の中間支援組織とともに被災地支援を行う NPO 等民間組織の活動をサポートすると同時に、災害ボランティアの養成など次の災害を見据えたネットワーク構築を進めている。

災害に強い街は市民のチカラで

(1) 防災士は何をしているのか？

- ・「防災士」は 1995 年に発生した「阪神淡路大震災」での被災経験をもとに設立された民間資格、2020 年 7 月末の認証数は全国で 196,745 名、道内は 3,770 人。
- ・防災士は人命救助を目的とした発災時の救助隊ではなく、平時の地域における防災・減災活動と、被災地支援が主な活動分野。
- ・民間資格では無いので義務も権利もないが、災害に多発する昨今、制度設立趣旨の「民間防災リーダー」としてのニーズが高まり、地域や企業における災害対策の策定や、災害ボランティアの主軸としての活躍への期待が高まっている。

(2) 今日の講師・辻川の仕事とは？

- ・2010 年から災害対策の教育や普及啓蒙の活動を開始、企業・団体・市民活動団体などを対象に講演活動や避難所運営訓練の指導を行っている。さらに、災害対策だけでなく、防犯や感染症対策についても導入支援やアドバイスをを行っている。
- ・2019 年 7 月、NPO ひがし北海道市民防災サポートを設立、釧路・根室・オホーツク・十勝の 50 市町村 100 万人という広いエリアを対象に、災害時につながるネットワーク構築を行っている。
- ・2019 年 10 月、胆振東部地震の被災地支援で集結した NPO 等各種団体と共同で「北の国災害サポートチーム」を発足、副代表として行政・社会福祉協議会と民間団体をつなぐ中間支援組織として

災害発生時の被災者支援を円滑にするための活動や、人材育成の活動を行っている。

(3) 災害は増えているのか？

- ・地震については、1993年の釧路沖地震を境に、2011年の東日本大震災など大きな被害をもたらす大規模災害がほぼ毎年発生している。
- ・洪水をもたらす大雨災害も、気候変動によりその数・規模共に拡大している印象。梅雨末期から秋にかけて、毎年のように被害をもたらされている。

災害による被害は常に隣り合わせにある

(4) 釧路における大雨災害

- ・今後気を付けるべき点として、「短時間に集中した降雨による河川の増水」がある。海水温度の上昇により、強い雨を降らせる雨雲の発達が増えていく。
- ・釧路川については、釧路湿原の存在が「天然のダム」としての機能があることで「釧路の街は洪水が起きない」という言説が広がっている。しかし、その貯水力も湿原の乾燥化で失われつつあり、2016年夏の3連続台風の時を超える降雨になった場合、湿原ダムも限界を迎えるかも。
- ・夏だけでなく、近年は冬の終わりの大雨による「融雪洪水」の危険性が高まっている。3月に振る大雪が大雨に変わりつつあり、2020年3月にも上流の標茶町で避難指示が出される事態に。

「こんな雨、初めて」…

そんな経験をもうすぐするかも？

(5) 釧路における地震・津波

- ・釧路市中心部で震度5強以上の揺れを観測する地震は2003年9月26日「平成15年十勝沖地震」以来約17年起こっていない。※阿寒・音別では2013年2月2日、十勝南部で発生したM6.5の地震により震度5強を観測。
- ・千島海溝でM8.8を超える超巨大地震が起こる確率は、向こう30年間で約7~40%。この確率が高いか低いかというと『正直、相当高い確率』であり、決して油断できる状況にない。

- ・2020年初め、この超巨大地震による最大津波の想定が国から出され、そのデータに基づいた「新たな被害想定」が2020年度内にも発表される予定となっている。
- ・地震発生から16分後には釧路港に30cmを超える津波が到達、さらに17分で高さ8.3mの第1波が到達する予測。
- ・ただし、最大地震がこの規模で必ず起こるという保証はなく、さらに大きな津波になることも。

(6) 命を守るためにすべきこと

- ・自らの環境における「リスク」を事前に把握しておくことが第1歩。「ハザードマップ」をしっかりと確認して、『被害想定』『避難場所』『避難経路』を知っておく。知った後は、自らの足で歩いて「所要時間」「複数の経路」「経路上の危険」を体感する。
 - ・大津波から身を守る時間は『実質15分』と考える。マグニチュード9級の地震による激しい揺れは3~5分続く、それから準備して逃げられる？家族であっても、自分の身は自分で守る「てんでんこ」の意識を持とう！
 - ・命を守る行動のあとは「自分の居場所を知らせる」こと。災害用伝言版「171」の活用を、日ごろから家族で練習しましょう。Web版171や、SNSも家族との居場所確認に生かしましょう。
- ☞ただし、大津波で携帯電話の基地局が奪われたら、携帯電話は使えない…『最低3か所、家族との集合場所を決めておく』…津波？洪水？災害の種類によって変わる。

(7) 災害から命を守るのは誰？

- ・「災害が起きても、自衛隊や消防が助けに来てくれるから大丈夫」という意識を持っている人は、災害発生時には生き残れないと思う事。
- ・大災害が起きれば、行政職員も同時に被災者になります。それでも地域のために、との意思で職務に当たりますが、限られた人員で、設備で、すべての住民を等しく救助することは不可能です。

自分の身は、自分で・自地域で守る

- ・新型コロナウイルス COVID-19 感染が広がる中で、共助さえままならない世の中。7月の九州豪雨に

においては、災害ボランティアの動員も県内限定となり、「救いの手」が届かない地域も。避難所の運営、支援物資の確保…外部のチカラを頼れないかも。

- ・だからこそ、「災害が起こる前に」に自分の命・家族の命・近所の人を守るために、地域における備えをしっかりと見直してください。「災害が起きてから」慌てても後のまつりです。

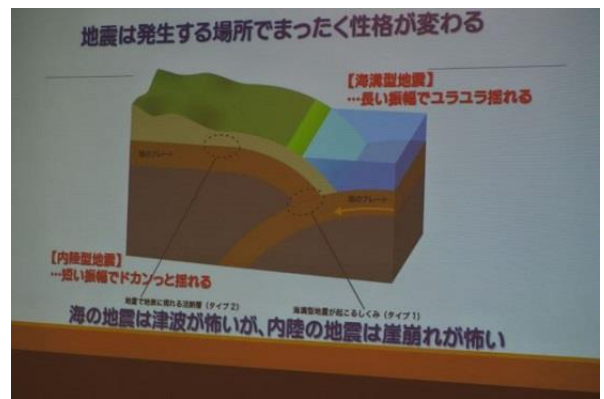
『避難しなくても良い環境』…家屋に損壊が無く生活ができる環境なら、避難所へ行かずに自宅で過ごすことも考えましょう。そのためにも日ごろからの備蓄を心掛ける必要があります。

『避難所ではなく、安全な親族や友人宅への避難』…川のそばや危険な崖に近い時、大雨の予想が出たら早めに安全な場所へ退避できるよう、平時から相談しておきましょう。

『体温計・マスク・消毒液を備蓄品へ』…感染に気を付けるべきは新型コロナウイルスだけではなく、さまざまな感染症のリスクがあります。そして、一人ひとりが災害時の主役です。行政や他人任せではなく、自ら率先して支え合いの役割分担に参加して、日常を取り戻すその時に向けて活躍しましょう。



起こる地震は東日本大地震クラス
マグニチュード 8.8~9.0



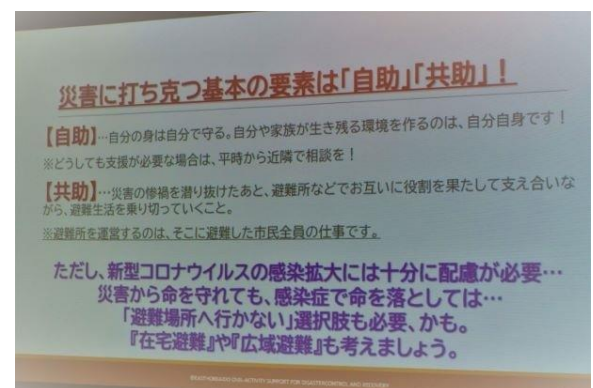
地震は発生する場所で、性格が変わる



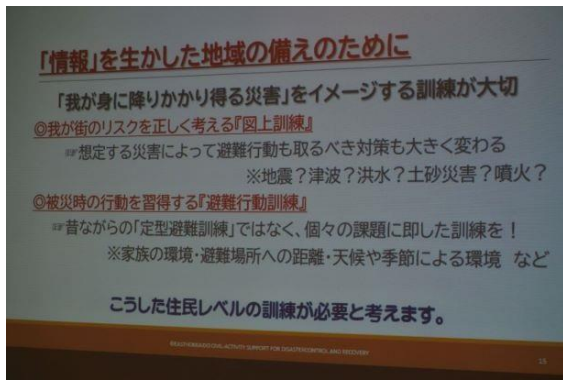
2016年8月25日釧路湿原は海のような姿に変貌



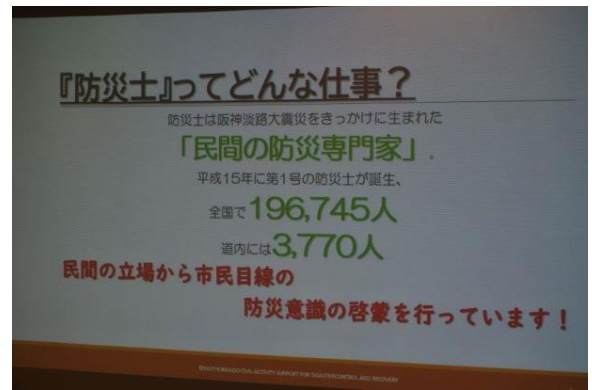
2016年8月 標茶町の釧路川



災害に打ち克つ基本の要素は「自助」「共助」



「情報」を生かした地域の備えのために



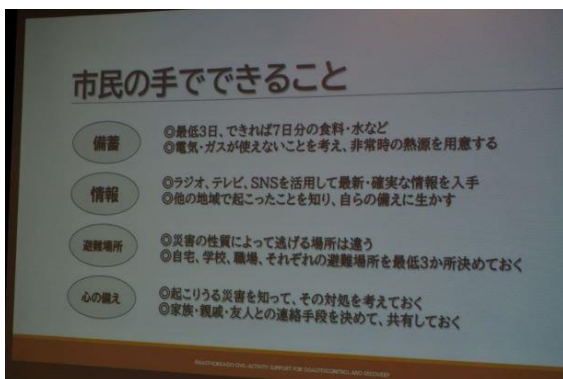
「防災士」ってどんな仕事



警戒レベル 1～5



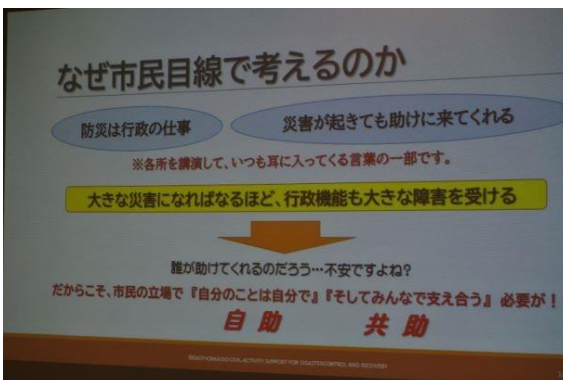
辻川実様 災害に強い街は市民のちからでと語る



市民の手で、できること



会長より辻川様にお礼



なぜ市民目線で考えるのか



◆◆◆◆◆
・次回のプログラム

9月4日(金)

「献血例会」移動例会

献血 11:45～順次 例会 12:30～

会場 イオン昭和店内

ぷらっと 946 献血センター → 日本橋

担当：国際社会奉仕委員会

・点

鐘

奈良会長

今週の会報担当：木内治彦会員